

# 高齢者を結核から守りたい

～ご家族や支援する方に知ってほしいこと～

## 結核は昔の病気ではありません

今でも高齢者を中心に年間1万人以上の患者が発生し、年間1,000人もの方が亡くなる日本の重大な感染症です。

近年の統計では、結核に感染している方の**6割超が70歳以上の高齢者**です。

戦後、国民病と結核が呼ばれた時代に感染し、加齢や疾病により免疫力が低下したことで発病する方が多いことが要因と考えられています。

## 結核とは…

結核菌を吸い込むことによって感染し、身体の免疫力が下がるときなどに菌が増えて発病する慢性感染症です。

たんの中に結核菌が含まれるようになった結核患者さんが咳やくしゃみをしたときに、飛び散るしぶきに含まれる結核菌を直接吸い込んで感染します。また、小さなしぶきの水分が蒸発して、空気中に浮いた結核菌を吸い込んででも感染します。

食器、衣類、本などについた菌からは感染しません。

## 結核の症状

風邪のような症状が続きます。

2週間以上続く、咳やたん、血が混じったたん、発熱、胸痛、からだのだるさ、食欲低下、急な体重減少などの症状には注意が必要です。

**高齢者は、咳やたんの症状が出にくい**ため、微熱、食欲低下、体重減少、からだのだるさ、などの症状が続くときは、結核を疑って医療機関を受診しましょう。

## 結核は治る病気です

結核と診断されても、おおむね3～4種類の薬を6～9ヶ月間、毎日きちんと飲めば治ります。

たんの中に結核菌が含まれると周囲の人にうつす危険性が高いため**入院が必要**になりますが、このような感染性がなければ**外来通院**で治療できます。

ただし、症状がよくなっても、菌の耐性化（薬が効かなくなること）を防ぐために毎日確実に服薬を続けることが大切です。

発見が遅れて長期の入院生活を送ることになると、筋力や認知機能等の低下につながりかねません。そうならないために早期発見が大切です！

# 結核の早期発見のためにできること

高齢者の結核は、2週間以上続く「咳」や「たん」などの典型的な症状が現れにくい場合がありますので、身近にいる方が健康状態の変化にも注目し、早期発見することで、高齢者やその周りの方々の健康を守ることにつながります。



## 健康観察のポイント

- 全体の印象 : なんとなく元気がない、活気がない
- 全身症状 : 微熱が続く、体重減少、食欲がない、全身の倦怠感
- 呼吸器系の症状 : 咳、たん、血たん、胸の痛み、呼吸困難



このような症状が2週間以上続く場合は、**結核を疑って**医師の診察を受けましょう。「もしかして結核でしょうか？」と聞いてみてもよいかもしれません。

## 現病歴、既往歴の確認

以下の3項目で**結核を発病するリスクが高い**とされています。

- 結核の既往歴のある方：肋膜炎・胸膜炎・肺門リンパ節炎など  
(高齢者自身が、結核と申し出られない場合もあります。)
- 胸部レントゲン検査で結核既往所見が認められる方
- 免疫抑制状態にある方：ステロイド剤、抗がん剤、その他免疫抑制剤治療をしている方、腎不全、血液透析中の方、コントロール不良な糖尿病の方、HIV/AIDS患者

## 定期健康診断の実施

年に1回は胸部レントゲン検査を受けて、結核を発病していないか確認しましょう。胸部レントゲン検査を受けると、他人に感染させる状態となる前に発見することにつながります。

高齢者介護に関わる皆様へ 下記もご参照ください。

いずれも公益財団法人結核予防会・結核研究所 ホームページ内に掲載されています。

- 高齢者施設・介護職員対象の結核ハンドブック（2016年7月）



- 介護職のあなたにこれだけは知ってほしい“結核のこと”（2023年4月）



川越市保健所 保健予防課 感染症担当  
TEL 049-227-5102 FAX 049-227-5108

令和6年3月発行